

Trend Vision One Endpoint Security 移行ガイド

～Apex One(オンプレミス版)からの移行編～

トレンドマイクロ株式会社

2024/7



目次

1. はじめに
2. 移行ステップ
3. 事前確認
4. 移行手順

はじめに

はじめに

- 本資料は Apex One（オンプレ版）からTrend Vision One Endpoint Security (Standard Endpoint Protection) の移行手順について解説した資料です。
- 本資料内で提示している手順はあくまでも一例であり、あらゆる環境への導入・移行を保証するものではありません。実際の稼働環境においては、既存の環境条件や運用状況を考慮の上、ご利用環境に合わせた実施手順をご検討いただくようお願い致します。
- システム要件や制限事項などは、弊社ホームページ上に公開されている各種情報およびオンラインヘルプを参照してください。
- 本資料は2024年7月時点で公開されている製品を元に作成されております。今後のバージョンアップや機能追加などによって内容は予告なく変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

当資料で用いられる略称について

- 当資料では、下記の略称を用いる場合がございます。

製品/機能名	略語
Standard Endpoint Protection	SEP
Trend Micro Apex One	Apex One
Endpoint Protection Platform	EPP

移行ステップ

Apex One(オンプレミス版)からの移行ステップ

事前確認

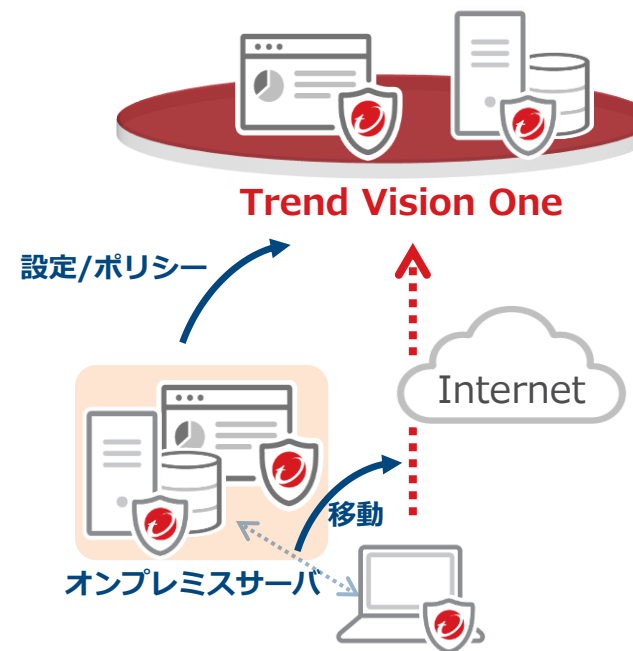
Trend Vision Oneの利用開始

インスタンスの作成

設定/ポリシーのエクスポート

設定/ポリシーのインポート
ポリシー割り当て

エージェントの移動



事前確認

システム要件とサポートポリシー

- 全体ガイドライン
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0015124>
- システム要件
 - 最新のシステム要件についてはオンラインヘルプをご参照ください。
<https://docs.trendmicro.com/ja-jp/documentation/article/trend-vision-one-standardendpointsysr>
 - 弊社のWindows向け製品ではAzure Code Signing を使用して各製品モジュールの署名を行っているため、ご利用のWindowsのバージョンに応じて Microsoft Windows セキュリティパッチを適用いただく必要があります。
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0013632>
- サポートポリシー
 - 製品プログラムビルドが公開された月から 18か月がサポート期間となります。
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0013585>
 - OSのサポートは、OS ベンダーが定めるサポート期間に準拠します。
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0009348>

通信要件

- 導入・移行前に、下記製品サポートページに記載の通信がご利用のネットワーク環境で許可されているか必ずご確認ください。
 - ◆ Trend Vision One で通信を許可する必要がある URL
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0010910>
- 通信は**エージェント側から443ポート**に対して行われます。
- 通信先IPアドレスは**固定ではありません**。IPアドレスでの通信制御を実施している場合は、IPアドレスではなくドメイン名による制御をご検討ください。
- エージェントにおいてTCPポート21112を使用します。内部処理で使われるほか、アップデートエージェントを利用している場合は、配下のエージェントからアップデートエージェントへのTCP21112に対して通信が発生します。オンプレミス版と異なり変更できかねます。



The screenshot shows the Trend Micro Online Help Center page for "ファイアウォールの除外: 日本 -Service Gateway". The page title is "ファイアウォールの除外: 日本 -Service Gateway". Below the title is a table titled "表 1. Endpoint Securityの除外設定". The table has three columns: "サービス/エージェント", "地域", and "除外".

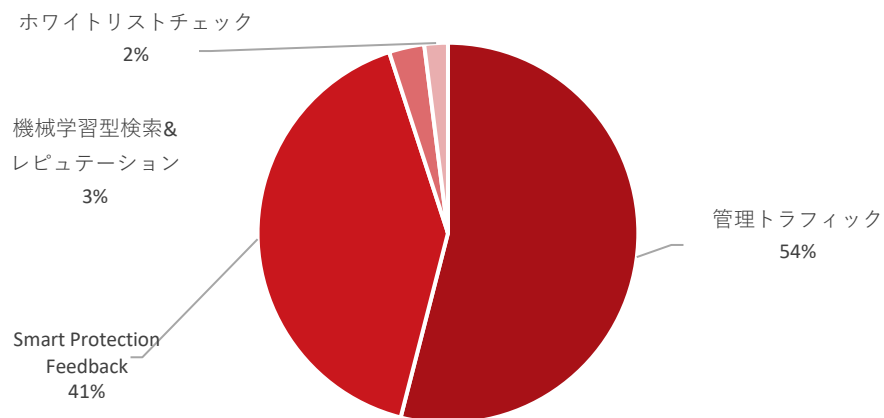
サービス/エージェント	地域	除外
Endpoint Sensorエージェント	すべて	<ul style="list-style-type: none">assessment-ap2.mgcp.trendmicro.comrelease-us1.mgcp.trendmicro.comcti-us1.mgcp.trendmicro.comapi-ap2.xbc.trendmicro.comcdn-api-ap2.xbc.trendmicro.coma1bz7u2flvp09t-ats.ist.ap-northeast-1.amazonaws.comtgw-ap2.mgcp.trendmicro.comsupport-connector-api.manage.trendmicro.comsupportconnectorpacks.manage.trendmicro.comrpcollectdthings.manage.trendmicro.comcloudendpoint-ap2.mgcp.trendmicro.comer-ws-ane1.xdr.trendmicro.comera-installer-ue1.xdr.trendmicro.comera-ane1.xdr.trendmicro.comendpointpolicy-cdn-ap2.xbc.trendmicro.comfiles.trendmicro.comxlogr-ane1.xdr.trendmicro.comapi.xdr.trendmicro.co.jpapi-cert.xdr.trendmicro.co.jpupload.xdr.trendmicro.co.jp

通信要件補足：プロキシの利用について

- V1ES SEPでは通信量やセッション数の観点から、エージェントとTrend Vision One間の通信でプロキシを経由しない構成を推奨しています。
- 各エージェントのパターンファイルなどがすべてプロキシ経由でダウンロードされることにより、プロキシサーバの負荷が高くなる可能性があります。また、エージェント1台当たり常時セッション7~10発生し、検索時などはセッション数も増加します。
- プロキシ経由でTrend Vision Oneに通信する必要がある環境では、以下の注意点があります。
 - Apex One（オンプレミス版）から移行時
エージェント移行前に移行元サーバの設定変更が必要です。（[エージェント移行時の注意事項](#)参照）

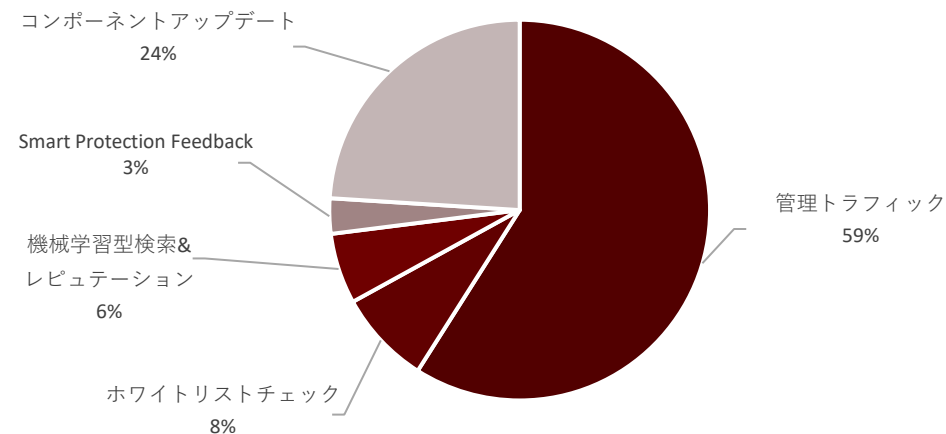
トラフィックサイズ

アップロード (8.82MB/24H)



データ	割合(%)	サイズ(MB)
管理トラフィック	54%	約4.7MB
ホワイトリストチェック	2%	約0.2MB
Smart Protection Feedback	41%	約3.6MB
機械学習型検索&レピュテーション	3%	約0.3MB

ダウンロード (16.59MB/24H)



データ	割合(%)	サイズ(MB)
管理トラフィック	59%	約9.8MB
コンポーネントアップデート	24%	約3.4MB (1回での通信)
ホワイトリストチェック	8%	約1.3MB
Smart Protection Feedback	3%	約0.5MB
機械学習型検索&レピュテーション	6%	約1.0MB

- 当資料のデータは、トレンドマイクロ社内において実施したテストをもとにトラフィックサイズの参考としていただくことを目的としています。
- トラフィックデータのサイズについては利用する機能やアップデートエージェントの利用によって異なります。
- 利用する環境によって数値は異なるため、より正確なデータが必要な際には実際の環境にてテストいただくことを推奨します。

定期メンテナンス

- 管理サーバへのパッチ適用やバージョンアップは月次のメンテナンスにより自動的に行われます。
※定期メンテナンスはユーザ側での停止やスキップ等の制御はできません
- メンテナンスの内容によっては新機能の実装や従来機能のUI・仕様の大幅な変更などが行われる場合もございます。
- メンテナンスによる修正・追加機能の内容や実施日時についてはサポートページでご案内しております。

◆Trend Vision One

<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0011365>

◆Standard Endpoint Protection / Trend Micro Apex One™ as a Service

<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0010037>

定期メンテナンス：配信サイズについて

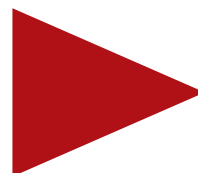
- 月次メンテナンスによるエージェント用プログラムの配信有無や配信サイズは、以下メンテナンス情報のReadmeよりご確認ください。

◆Trend Micro Apex One™ as a Service / Standard Endpoint Protection：メンテナンス情報

<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0010037>

2020/07/15 (水)	18:00 (日本時間)	25:00 (日本時間)	Readme
----------------	-----------------	-----------------	--------

目次
1. はじめに
○ 修正される問題
○ 新機能
○ 補足事項
2. ドキュメント
3. 設定
4. 既知の制限事項
5. お問い合わせ先
6. 使用許諾契約書について
7. お客様から収集する個人情報の取り扱いについて



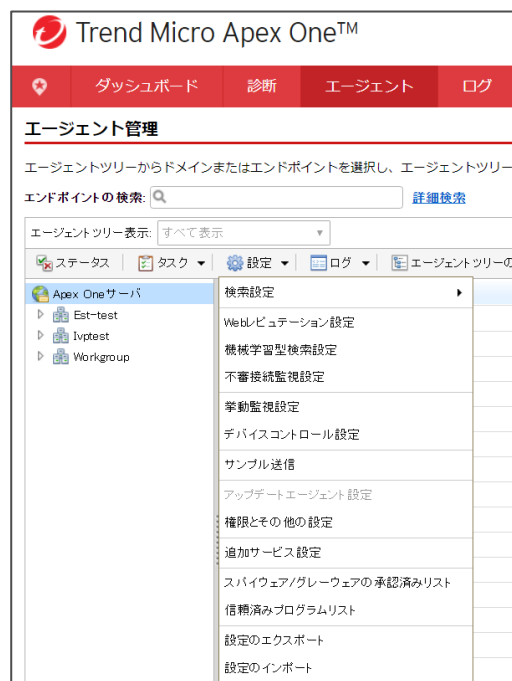
補足事項
Trend Micro Apex Central™ as a Service 補足事項はありません。
Trend Micro Apex One™ as a Service セキュリティエージェントのバージョン: 14.0.8515 セキュリティエージェントの再起動の要否: 必要 配信に必要なネットワークトラフィック (帯域幅) の推定サイズ: 32ビットセキュリティエージェント用のHotFix = 311 MB 64ビットセキュリティエージェント用のHotFix = 323 MB
Trend Micro Apex One™ (Mac) as a Service セキュリティエージェントのバージョン: 3.5.3455 セキュリティエージェントの再起動の要否: 不要 配信に必要なネットワークトラフィック (帯域幅) の推定サイズ: 64ビットセキュリティエージェント用のHotFix = 134.4 MB

Apex One（オンプレミス版）との比較：エージェント設定の運用変更

- V1ES SEPではエージェントの各種設定をポリシー形式で一律管理する運用方法に統合されています。
- オンプレミス版にてApex One/ウイルスバスター Corp. コンソールからエージェント設定を行っていた場合、ポリシーによる設定運用へ切り替える必要があります。

※オンプレミス版で利用していた際のドメイン設定は、Apex One設定エクスポートツールによりポリシー形式で移行できます。

【オンプレミス版 Apex One サーバのエージェント設定画面】



【V1ES SEPのポリシー設定画面】



エージェント移行時の注意事項 : 移行元のApex One

- ライセンス購入期間

- オンプレミス版Apex OneからStandard Endpoint Protectionへ移行する際は、移行期間を含むライセンスのご用意をお願いいたします。移行元である Apex One のライセンス期間が終了した場合には、Apex One に対するサポートは提供されません。

◆Trend Micro Apex One からの移行時のライセンスについて : Trend Vision One Endpoint Security - Standard Endpoint Protection
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0016053>

- プログラムビルド

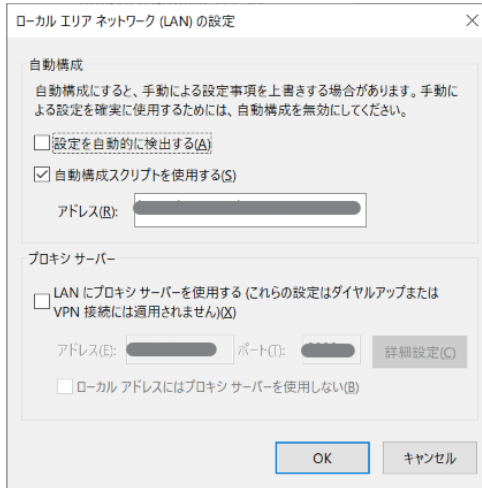
- オンプレミス版Apex Oneのサポートポリシーでは、製品プログラムビルド (新規インストール用プログラム、Service Pack、Patch、Critical Patch) 毎にサポート期間を公開月から18か月としています。
- サポートを終了した製品プログラムビルドに対するサポート提供内容は限定的であるため、SEP移行前には最新版へのバージョンアップを推奨しております。

◆Trend Micro Apex One サポートポリシー
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0009955>

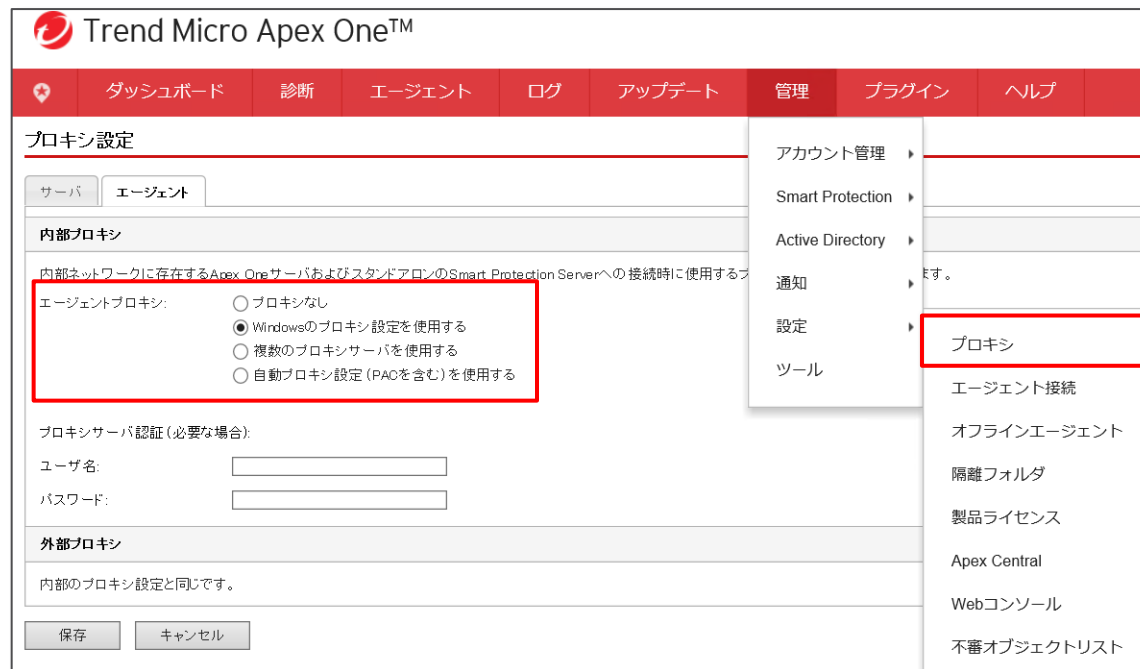
エージェント移行時の注意事項：プロキシ利用環境

- SEPエージェントがプロキシ経由でTrend Vision Oneに通信する環境の場合、必ずオンプレミス版サーバの下記設定を「Windowsのプロキシ設定を使用する」に変更してから、オンプレミス版エージェントを移行してください。
- SEP移行後はデフォルトで「Windowsのプロキシ設定を使用する」設定がセットされます。（変更不可）
専用Proxyサーバを参照する場合は、PACファイルにて通信を制御頂き、Windowsの「プロキシ設定」に適用してください。

■ オンプレミスApex Oneコンソール>管理>設定>プロキシ

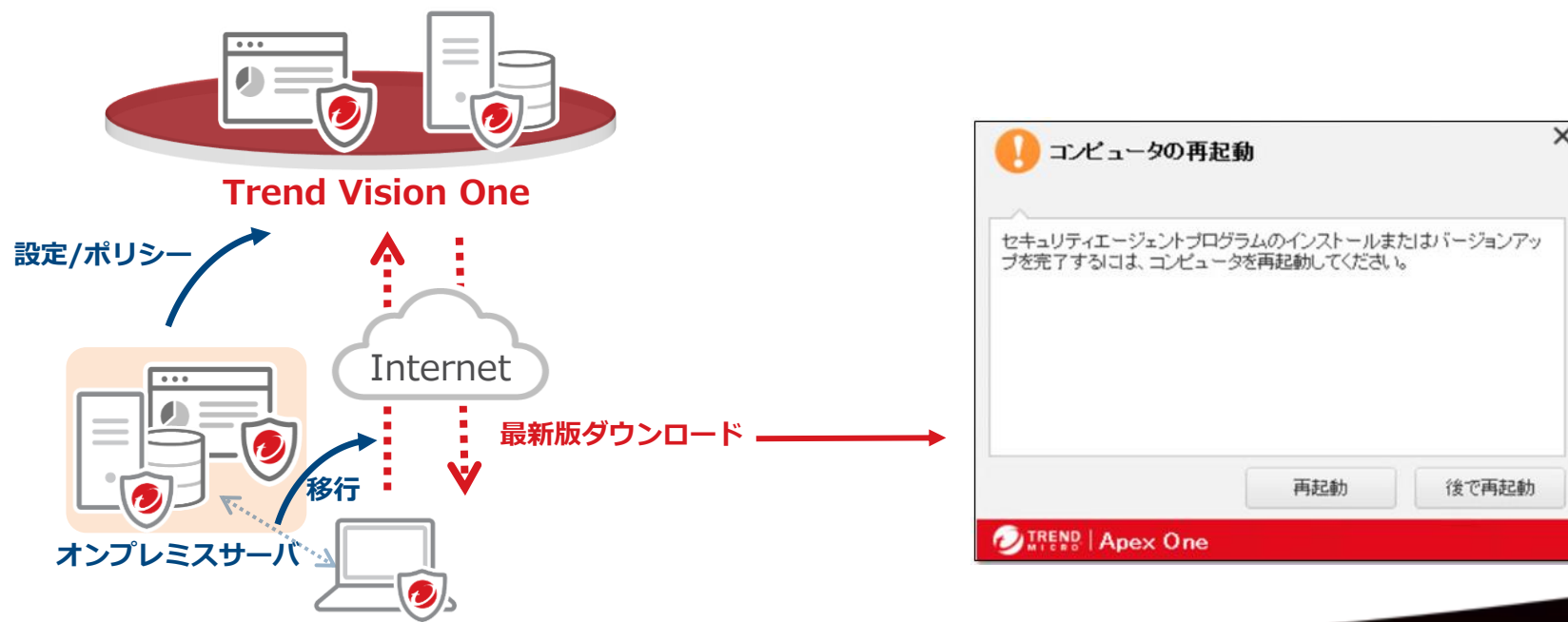


▲PAC利用設定をWindows側の「プロキシ設定」で設定済の場合、「Windowsのプロキシ設定を使用する」を選択します。



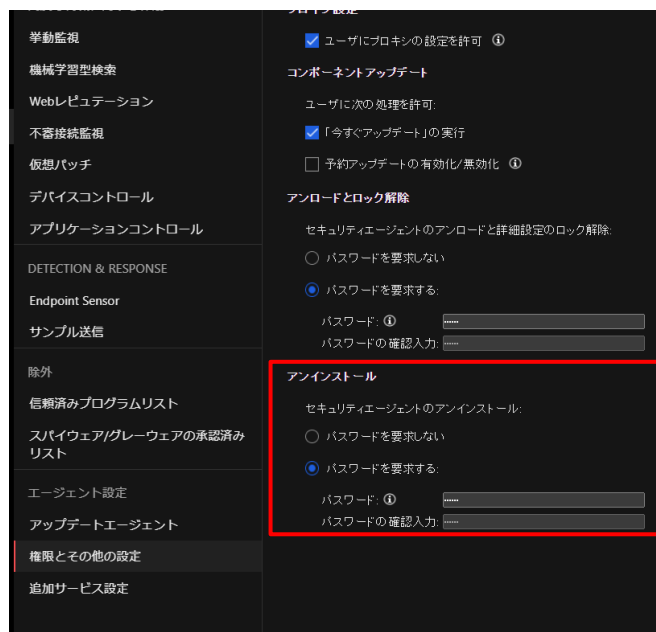
エージェント移行時の注意事項：移行時のトラフィック

- エージェントの移動後、SEPへのバージョンアップのため200~300MB程度のアップデートプログラムが各端末へ配信されます。
※アップデート完了後、端末の再起動が必要になる場合がございます。
- エージェント移行時はネットワーク帯域を考慮し、オンプレミス版から操作する「エージェントの移動」を少しずつ行っていただき、段階的にエージェントの移行作業を進めていただくことを推奨いたします。
 - ◆[Standard Endpoint Protection] 既存の Apex One エージェントを段階的に Standard Endpoint Protection に移行する方法
<https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0015149>



エージェント移行時の注意事項：アンインストールパスワード

- インストール・移行直後のエージェントには、セキュリティの観点から、**デフォルトでランダムなパスワードが設定される仕様になっています**。インストール・移行後は必ずポリシーで任意のパスワードに変更してください。
- オンプレミス版のサーバインストール時に設定したパスワードは引き継がれません。また、オンプレミス版のエージェント設定からポリシーに引き継いだパスワードはSEP側の要件(※)を満たす必要があります。
- 検証用ライセンスご利用の場合、検証期間が終了するまでにアンインストールパスワードを設定しないとアンインストールが出来なくなりますので、必ず設定を行ってください。



※パスワードは以下の複雑さの要件を満たしている必要があります。

- 8～32文字の長さ
- 大文字 (A～Z)、小文字 (a～z)、数字 (0～9)、特殊文字をそれぞれ1文字以上含む
- 印刷不可能なASCII文字を含まない

移行手順

移行手順

-Trend Vision Oneの利用開始-

Trend Vision Oneの利用開始

- ライセンス証書に記載の「アクティベーションリンク」を「クリック」します。
- 以降の手順は以下をご参照ください。
 - <https://success.trendmicro.com/ja-JP/solution/KA-0012547>
 - 該当箇所：アクティベーション方法

ライセンス証書

本製品の使用許諾契約の内容につきましては、製品またはサービスをご使用される前に使用許諾契約書または、サービス利用規約を必ずご確認ください。

製品インストール時に表示される使用許諾契約書と以下のURLのWeb上に掲載している使用許諾契約書に異なる定めがあった場合には、当該Web上に掲載されている使用許諾契約書が優先されます。

製品インストール時、使用許諾契約書が確認できない製品やサービスにつきましては、当該Webに掲載している使用許諾契約書または、サービス利用規約をご確認くださいませようお願いたします。

お客様が当該製品またはサービスを利用された場合、当該Webに掲載の該当する使用許諾契約書またはサービス利用規約のすべての条件に同意したものとみなされます。

https://www.trendmicro.com/ja_jp/about/legal/eula.html

販売店発注番号	
TM 納品番号	
製品名	TSSL Trend Vision One Endpoint Security Essentials 新規
ライセンス数	4

【重要】納品されたライセンス対象の「製品キー種別」がアクティベーションリンク（URL）のお客様：URLをクリックする前に必ず[こちらのページ](#)をご確認下さい。

（「製品キー種別」がレジストレーションキーのお客様はサポートガイド記載の手順に従ってお手続きください。）

ライセンス対象	製品キー種別	製品キー / アクティベーションリンク
Trend Vision One Endpoint Security Essentials	アクティベーション	https://activation.trendmicro.com/

移行手順

-製品インスタンスを作成-

製品インスタンスを作成

① 製品インスタンス

トレンドマイクロのソリューションを一元管理できます。新しい製品インスタンス (Standard Endpoint Protection) をプロビジョニングします。

② エンドポイントグループマネージャ

エージェントはエンドポイントグループマネージャと通信を行います。SEPの場合、デフォルトでWindows/Mac用のマネージャが1台ずつ自動的に作成されます。

表示名	ステータス	インスタンスID	インスタンスタイプ	地域	説明
① Standard Endpoint Protection INT_01	• 接続済み	6045bd63-8956-6571-7d7f- [REDACTED]	Standard Endpoint Protection	Japan	
② Windows				Japan	
Mac				Japan	
+ エンドポイントグループマネージャ					

製品インスタンスを作成

表示名	ステータス	インスタンスID	インスタンスタイプ	地域
Standard Endpoint Protection INT_01	● 接続済み	6045bd67-ca60- [REDACTED]	Standard Endpoint Protection	Japan
Standard Endpoint Protection INT_02	● 接続済み	b4187188-14db- [REDACTED]	Server & Workload Protection	Japan

管理対象インスタンスの設定

インスタンスタイプ:
インスタンスタイプを選択

Server & Workload Protection

Standard Endpoint Protection

1. 左メニュー[Service Management] > [Product Instance] を開きます。
2. [製品インスタンスを作成]をクリック。
3. [インスタンスタイプ] > [Standard Endpoint Protection] をクリック。

管理対象インスタンスの設定

管理対象インスタンスの設定

インスタンスタイプ:
Standard Endpoint Protection

表示名:
Standard Endpoint Protection_Instance 01

最大100文字で、<、>、:、"、/、|、?、*、&は使用できません。

地域:
Japan

説明:

保存 キャンセル

設定	説明
インスタンスタイプ	インスタンスタイプを選択します。 ※Standard Endpoint Protection のインスタンスは最大 5つまで 作成できます。
表示名	製品インスタンスを識別する一意の名前を定めます。 ※最大長は 100文字 です。 <、>、:、"、/、 、?、*、&は使用できません。
地域*	インスタンスをプロビジョニングする地域を決定します。日本の場合、 Japan を選択します。
説明	任意記載。

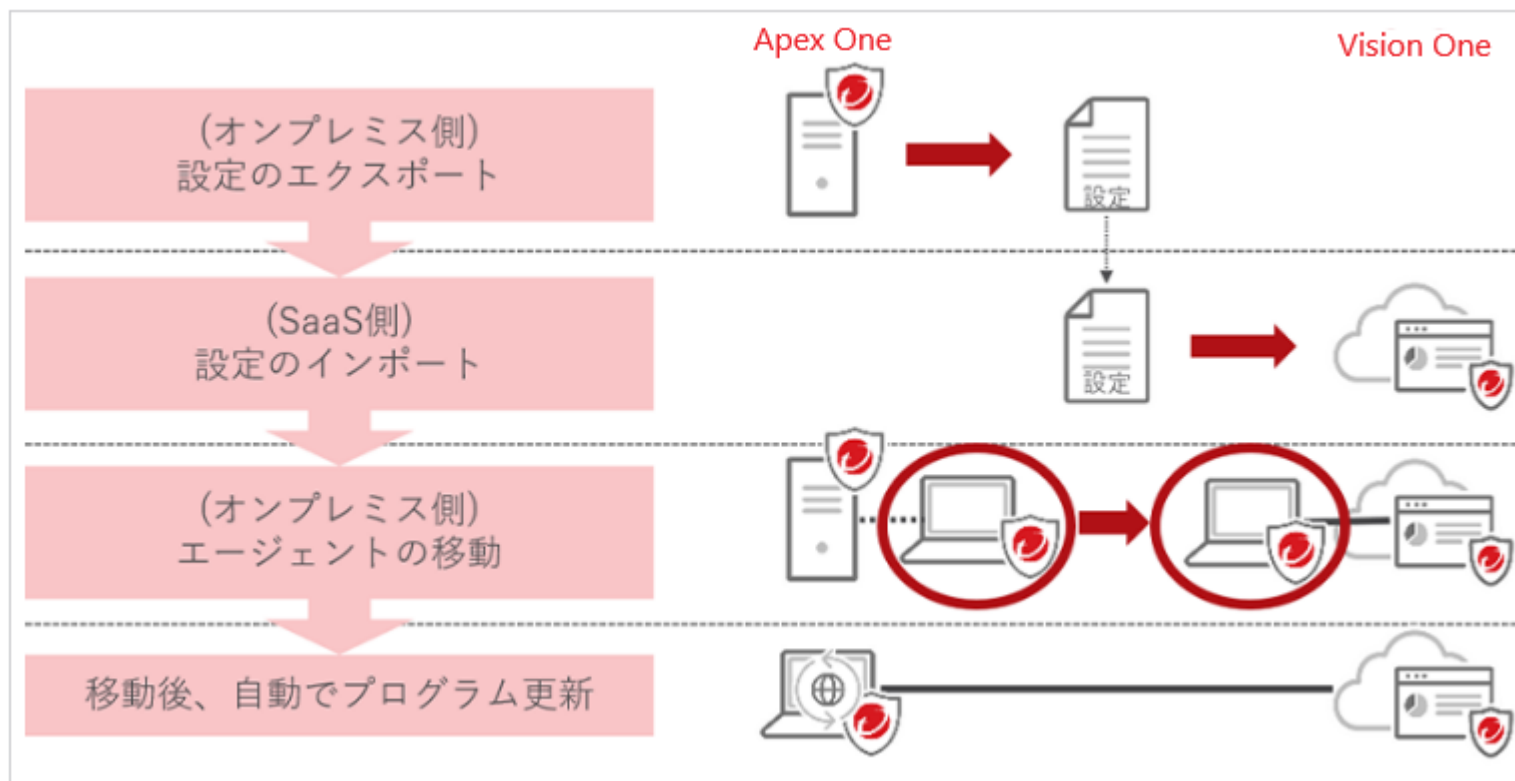
入力したら [保存] をクリックします。

移行手順

-Apex Oneサーバ設定をSEPへ移行-

全体移行手順

- Apex One サーバの設定をエクスポートしてVision Oneへインポートした後、エージェントの移行を行います。
- Apex One サーバの設定は、「**Apex One設定エクスポートツール**」を使用してエクスポートします。



Apex One設定エクスポートツールのダウンロード 1/2

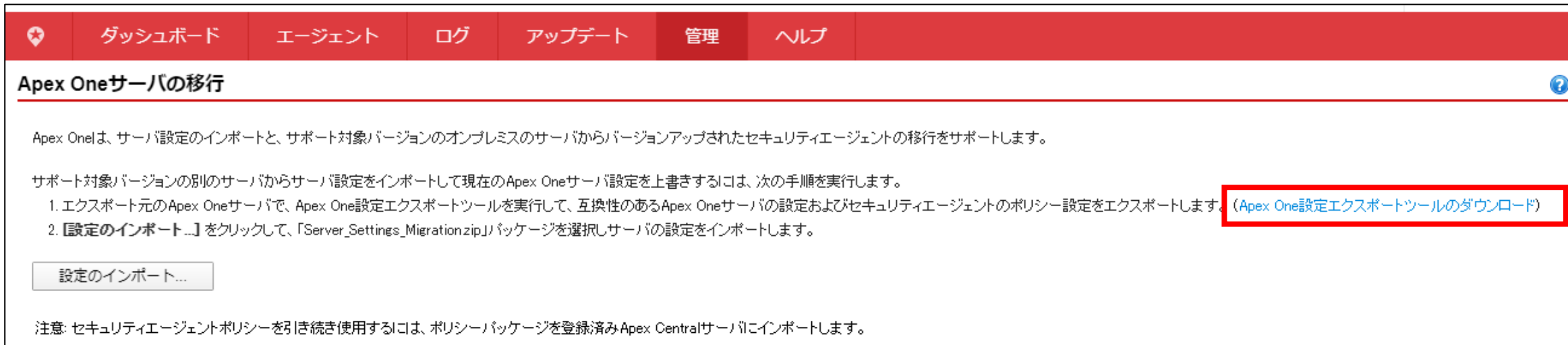
1. Vision Oneコンソールにて、左メニュー Endpoint Security Operations> Standard Endpoint Protection> ディレクトリ> 製品サーバ> エンドポイントグループマネージャへSSOでログインします。

The screenshot shows the Trend Vision One console interface. The left sidebar has 'Standard Endpoint Protection' highlighted. The main content area shows the 'Directory' view under 'Product Servers'. A table lists the following servers:

サーバ	表示名	製品	接続タイプ	最新のレポート	仮想アナライザ
3.manage.trendmicro.com	Mac	Apex One (Mac) 3.5	手動	2023/12/14 11:57	
3.manage.trendmicro.com:443/officescan/	Windows	Apex One 14.0	自動	2023/12/14 10:05	

Apex One設定エクスポートツールのダウンロード 2/2

2. 管理 > 設定 > サーバの移行 をクリック。
3. [Apex One設定エクスポートツールのダウンロード] をクリックし、ダウンロードします。



★ ダッシュボード エージェント ログ アップデート 管理 ヘルプ

Apex Oneサーバの移行 ?

Apex Oneは、サーバ設定のインポートと、サポート対象バージョンのオンプレミスのサーバからバージョンアップされたセキュリティエージェントの移行をサポートします。

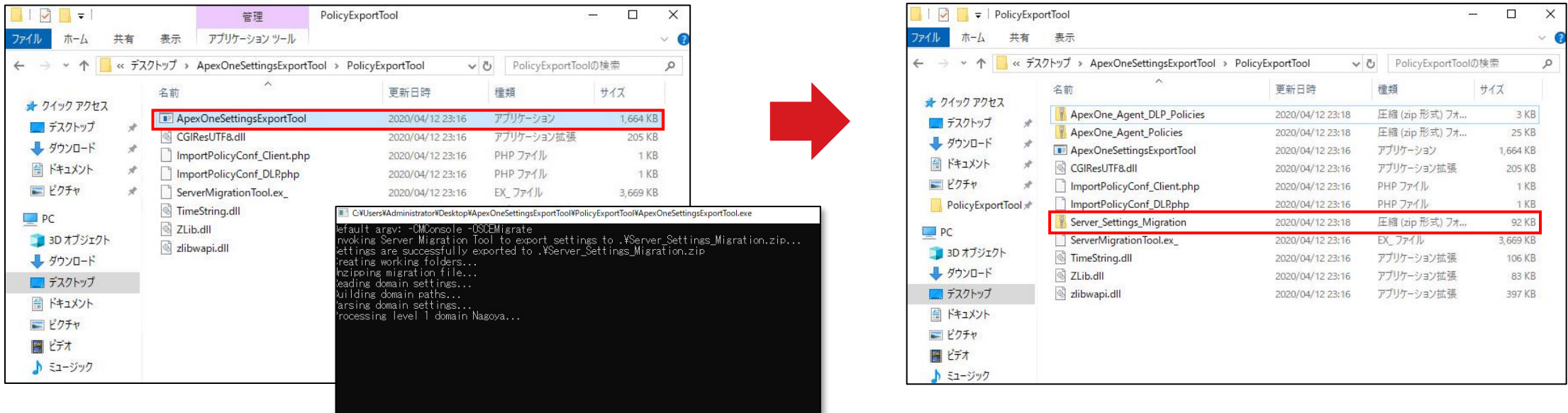
サポート対象バージョンの別のサーバからサーバ設定をインポートして現在のApex Oneサーバ設定を上書きするには、次の手順を実行します。

1. エクスポート元のApex Oneサーバで、Apex One設定エクスポートツールを実行して、互換性のあるApex Oneサーバの設定およびセキュリティエージェントのポリシー設定をエクスポートします。 [\(Apex One設定エクスポートツールのダウンロード\)](#)
2. **設定のインポート...** をクリックして、「Server_Settings_Migration.zip」パッケージを選択しサーバの設定をインポートします。

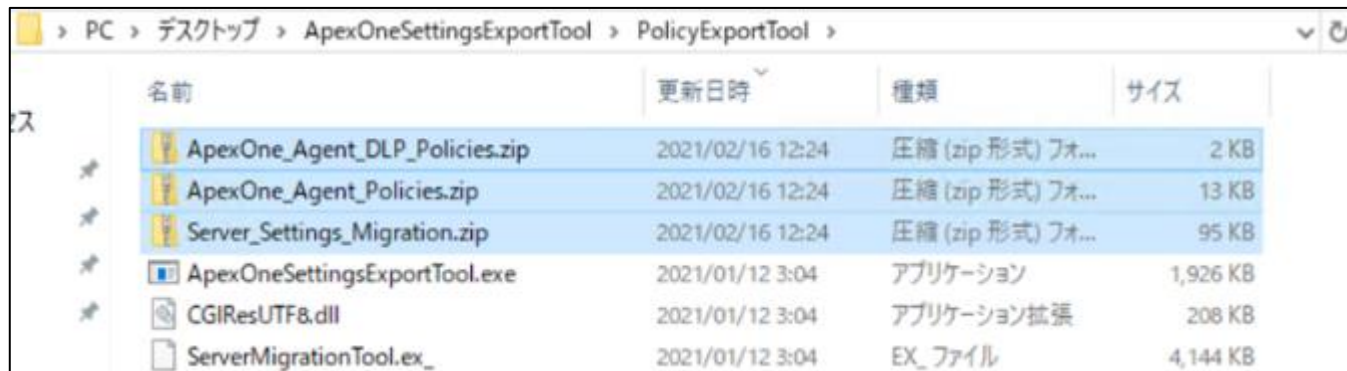
注意: セキュリティエージェントポリシーを引き続き使用する場合は、ポリシーパッケージを登録済みApex Centralサーバにインポートします。

Apex One設定エクスポートツールの実行

1. Apex One設定エクスポートツールを 既存Apex One サーバにコピーします。
2. ApexOneSettingsExportTool.exeをコマンドプロンプトから管理者として実行します。
3. エクスポートされたZipファイルを取得します。



Apex One設定エクスポートツールの実行



ファイル名	インポート（移行）される設定項目
Server_Settings_Migration.zip	オンプレのApex Oneサーバ設定
ApexOne_Agent_Policies.zip	ドメイン毎に設定しているEPPの設定
ApexOne_Agent_DLP_Policies.zip	情報漏えい対策オプションの設定（利用していない場合は不要）

Apex Oneサーバ設定のインポート 1/3

1. Vision Oneコンソールにて、左メニュー Endpoint Security Operations> Standard Endpoint Protection> ディレクトリ> 製品サーバ> エンドポイントグループマネージャへSSOでログインします。

The screenshot shows the Trend Vision One console interface. The left sidebar menu has 'Endpoint Security Operations' expanded, with 'Standard Endpoint Protection' highlighted. The main content area shows the '製品サーバ' (Product Servers) page, which is also highlighted. A red arrow points from the '製品サーバ' link in the main content area to the detailed view of the '製品サーバ' page shown in the foreground.

Trend Vision One™ Standard Endpoint Protection

製品サーバ

サーバの種類:

サーバ	表示名	製品	接続タイプ	最新のレポート	仮想アナライザ
[redacted].manage.trendmicro.com	Mac	Apex One (Mac) 3.5	手動	2023/12/14 11:57	
[redacted].manage.trendmicro.com:443/officescan/	Windows	Apex One 14.0	自動	2023/12/14 10:05	

Apex Oneサーバ設定のインポート 2/3

2. 管理 > 設定 > サーバの移行 をクリック。
3. [設定のインポート]をクリックし、事前を取得した「Server_Settings_Migration.zip」インポートします。

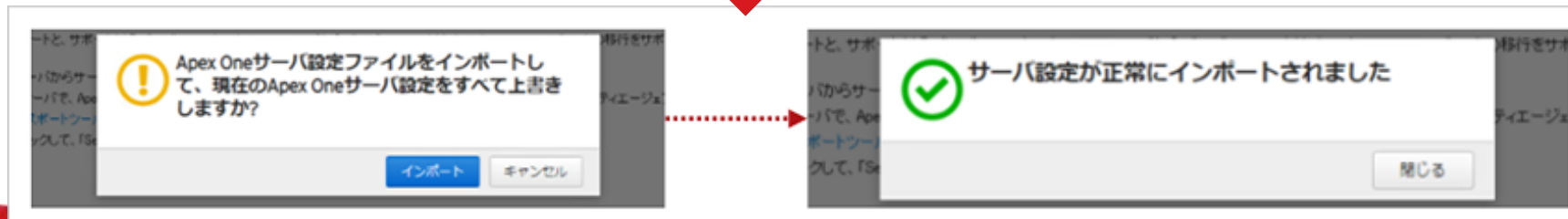
Apex Oneは、サーバ設定のインポートと、サポート対象バージョンのオンプレミスのサーバからバージョンアップされたセキュリティエージェントの移行をサポートします。

サポート対象バージョンの別のサーバからサーバ設定をインポートして現在のApex Oneサーバ設定を上書きするには、次の手順を実行します。

1. エクスポート元のApex Oneサーバで、Apex One設定エクスポートツールを実行して、互換性のあるApex Oneサーバの設定およびセキュリティエージェントのポリシー設定をエクスポートします。(Apex One設定エクスポートツールのダウンロード)
2. **[設定のインポート...]**をクリックして、「Server_Settings_Migration.zip」パッケージを選択しサーバの設定をインポートします。

設定のインポート...

注意: セキュリティエージェントポリシーを引き続き使用するには、ポリシーパッケージを登録済みApex Centralサーバにインポートします。



Apex Oneサーバ設定のインポート 3/3

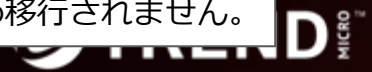
4. インポートされたサーバ設定項目をエンドポイントグループマネージャにて確認します。

※インポートされた設定項目については以下を参照

インポート（移行）される設定項目	対象パッケージ	移行単位
ドメイン階層情報	Server_Settings_Migration.zip	複数管理サーバ
グローバルエージェント設定	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
エージェントアップデート元	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
エンドポイントの位置	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
エージェント通知設定	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
ファイアウォール	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
オフラインエージェント	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ
Webコンソール設定	Server_Settings_Migration.zip	管理サーバ1台のみ

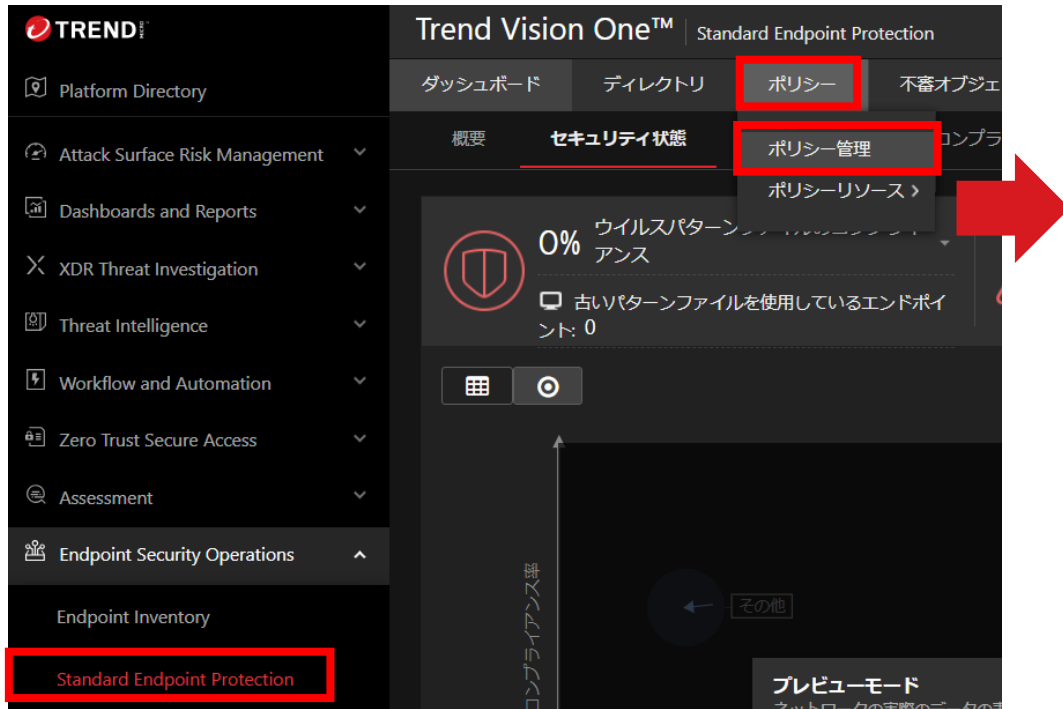
※ドメイン階層情報：Apex Oneサーバ複数台でドメイングループ名の重複がある場合、1台目の重複ドメイングループとそのサブドメインのみ移行され、2台目以降のドメイングループとサブドメインは移行されません。

例：サーバ1-営業第一部ドメイン、サーバ2-営業第一部ドメインの場合
 →移行後は、サーバ1の営業第一部ドメインとそのサブドメインが移行され、サーバ2の営業第一部ドメインについてはサブドメイン含め移行されません。



ポリシーのインポート

1. Vision Oneコンソールにて、左メニュー Endpoint Security Operations> Standard Endpoint Protectionをクリック。
2. [ポリシー] > [ポリシー管理] より、[製品] : [Apex Oneセキュリティエージェント]を選択。
3. [設定のインポート] をクリック。事前を取得した「 ApexOne_Agent_Policies.zip 」のポリシーのファイルを選択しインポートします。

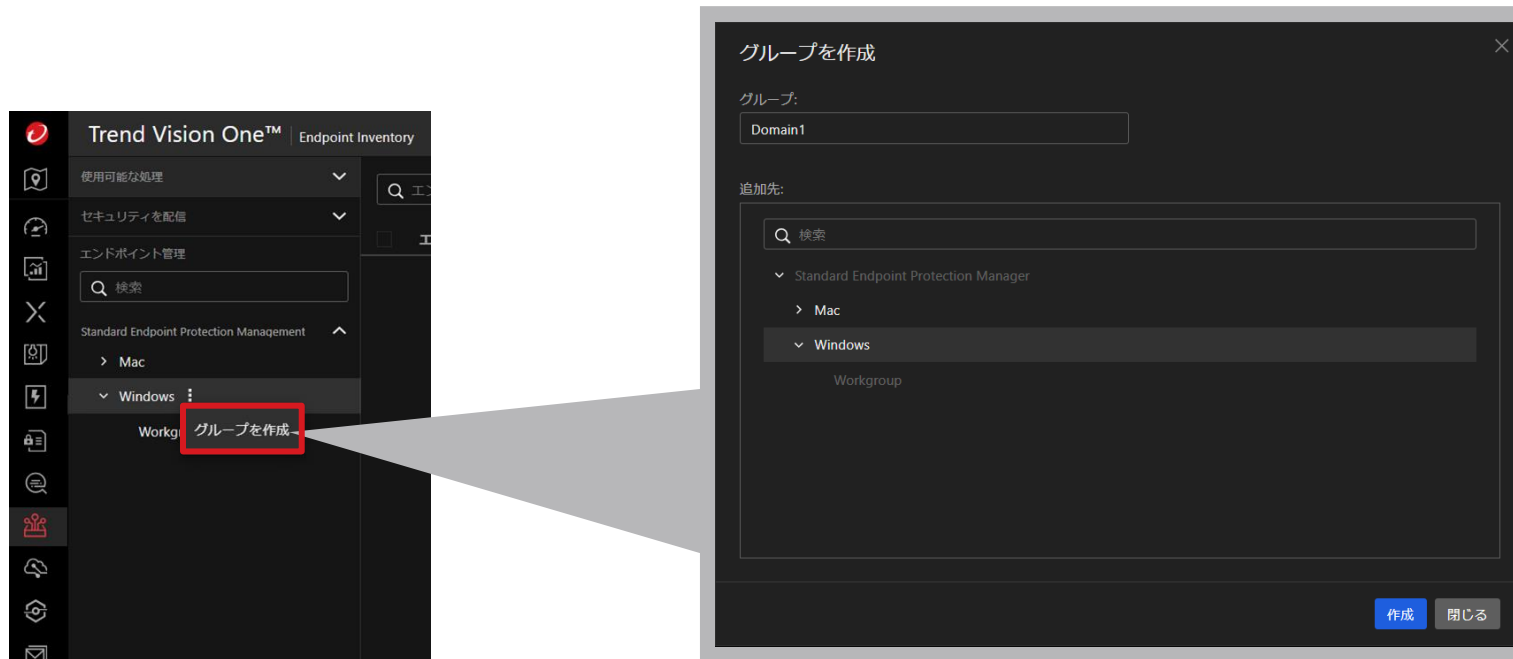


※同じポリシーをインポートする場合、上書きするかどうか確認するポップアップが出力されます。
[OK] を選択すると、既存のポリシーがインポートされるポリシーによって上書きされます。



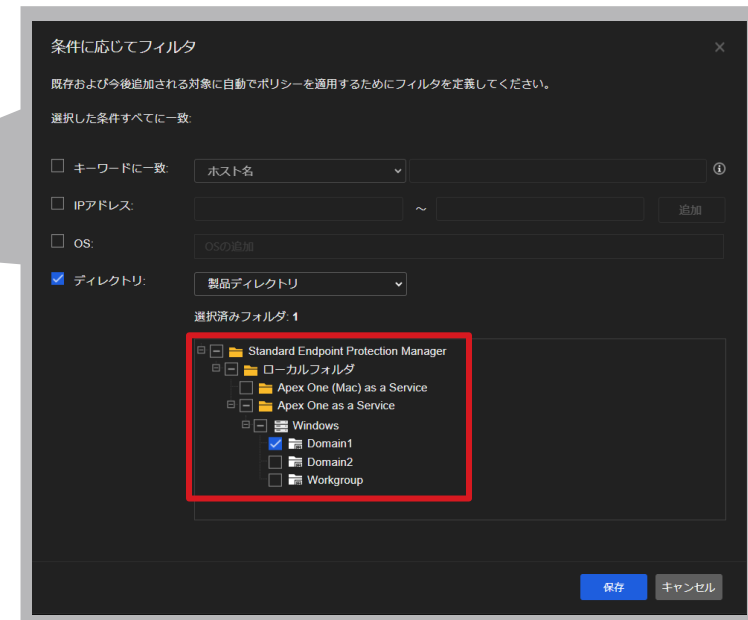
ポリシーの配信対象：一般的な割り当て方法（1/2）

- ポリシーの割り当てのため、エージェントのインストール前にEndpoint Inventoryからエンドポイントグループを作成しておきます。
- Apex One（オンプレミス版）から移行する場合は、Apex One設定エクスポートツールによって移行元サーバのドメインがエンドポイントグループとしてインポートされます。



ポリシーの配信対象：一般的な割り当て方法（2/2）

- ポリシー編集画面「対象」の「条件に応じてフィルタ」から、作成したエンドポイントグループを選択してポリシーを割り当てます。
- 新規にインストールしたエージェントは、初期値のWorkgroupに所属するため、インストール時点でポリシーが適用されるよう、最低限汎用的なポリシーを作成しWorkgroupドメインに割り当てておくことを推奨します。インストール後、適切なポリシーが割り当てられるよう、Endpoint Inventoryから当該エージェントをグループに移動してください。
- Apex One（オンプレミス版）から移行したエージェントは、移行元ドメインと同名のエンドポイントグループに所属します。インポートしたポリシーを各エンドポイントグループに割り当てた上でエージェントの移行を行ってください。



ポリシーの配信対象：ポリシーの継承

- ポリシーの継承機能により、作成したポリシーの親子関係を作成し各種設定を継承できます。親ポリシーを継承したポリシーでは、ベースの設定は固定したまま、検索除外設定などを特定の箇所のみを編集できるように設定できます。
 - リアルタイム検索・手動検索・ScanNow・予約検索の各種除外設定、予約検索の開始時刻が編集できます。

ダッシュボード | ディレクトリ | **ポリシー** | 不審オブジェクトの同期 | 調査 | ログとレポート | 運用管理

ポリシー管理

製品: Apex Oneセキュリティエージェント

+ 作成 | 設定のコピー | 設定の継承 | 設定のインポート | 設定のエクスポート

<input type="checkbox"/>	優先度	ポリシー	ポリシーのバージョン	親ポリシー	差異	所有者
<input type="checkbox"/>	1	親ポリシ	1708575193	なし	なし	
<input type="checkbox"/>		継承1	1708575270	親ポリシ	3	

差異

設定	親ポリシー: 親ポリシ	子ポリシー: 継承1
リアルタイム検索 > 検索除外 > ディレクトリ	C:\temp\ExcludeDir	追加済み: C:\temp\Add
リアルタイム検索 > 検索除外 > ファイル拡張子	.BOX	追加済み: .BIN
予約検索 > 予約	毎週 月曜日. 開始時刻:12:00	毎週 水曜日. 開始時刻:12:00

ポリシーの配信対象：ポリシーの優先度

- フィルタ条件、ラベル条件のポリシーを複数作成した場合、それぞれのポリシーに優先度を設定できます。
- エージェントは複数のポリシーの条件に合致している場合、優先度の高いポリシーが割り当てられます。

優先度	ポリシー	ポリシーのバージョン	親ポリシー	差異	所有者	最終編集者	最終編集日
	ロック済み	OUS Test	1702970852	なし	なし		
1	親ポリシー	1708575193	なし	なし			
2	検証用ポリシー	1708575538	なし	なし			
3	アップデートエージェント	1708575573	なし	なし			
4	継承1	1708575611	親ポリシー				

優先度	ポリシー	割り当てられた対象	対象	作成者
1	親ポリシー	3	フィルタ済み	ryanagi.trendmicro+F2@gmail.com
2	検証用ポリシー	0	フィルタ済み	ryanagi.trendmicro+F2@gmail.com
3	アップデートエージェント	0	フィルタ済み	ryanagi.trendmicro+F2@gmail.com
4	継承1	0	フィルタ済み	ryanagi.trendmicro+F2@gmail.com

プルダウンから任意の優先度を設定して保存します。

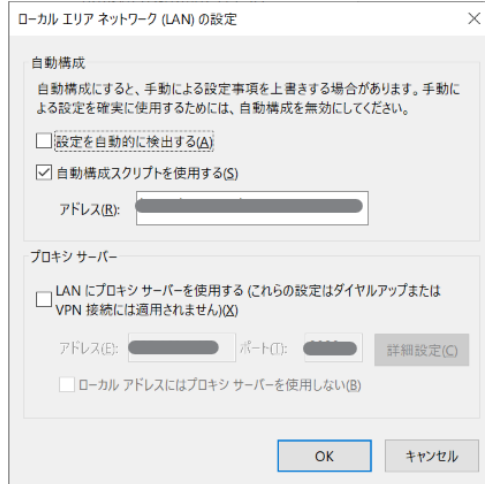
移行手順

-Apex OneエージェントをSEPへ移動-

【準備】プロキシ環境の場合

- SEPエージェントをプロキシを経由して管理される予定の場合、必ず移行元のApex Oneコンソールにてプロキシを使用する設定に変更してから、エージェントをSEPへ移動してください。

※移動時のみ専用プロキシを参照する場合は、PACファイルにて通信を制御のうえ下記設定をします。



▲PAC利用設定をWindows側の「プロキシ設定」で設定済の場合も、「Windowsのプロキシ設定を使用する」を選択します



【準備】 移行先エンドポイントグループマネージャの FQDN 確認

1. Vision Oneコンソールにて、左メニュー Endpoint Security Operations> Standard Endpoint Protection> ディレクトリ> 製品サーバ> エンドポイントグループマネージャのFQDNをメモしておきます。

The screenshot shows the Trend Vision One console interface. The left sidebar has 'Endpoint Security Operations' expanded, with 'Standard Endpoint Protection' highlighted. The main content area shows the 'Directory' view, with 'Product Servers' selected. A red box highlights the 'Product Servers' section, and a red arrow points to a table of servers. A callout box points to the FQDN 'xxxx.manage.trendmicro.com' in the table.

サーバ	表示名	製品	接続タイプ	最新のレポート	仮想アナライザ
xxxx.manage.trendmicro.com	Mac	Apex One (Mac) 3.5	手動	2023/12/14 11:57	
xxxx.manage.trendmicro.com:443/officescan/	Windows	Apex One 14.0	自動	2023/12/14 10:05	

コンソール指示によるエージェントの移動方法

1. Apex Oneコンソールにて、エージェント>エージェントの管理>より移行したいエージェントを選択。
※「shift」キーを押しながら選択することで、複数のエージェントを選択可能です。
2. エージェントを右クリックし、[エージェントツリーの管理] > [エージェントの移動] を選択。
3. [選択したエージェントを別の Apex One サーバに移動する] を選択、「Apex One サーバ名/IPアドレス」の欄に p.26でコピーした FQDN を入力し、[移動] を選択。エージェントがSEPへ移動します。

The image shows two screenshots from the Trend Micro Apex One console. The left screenshot shows the 'エージェント管理' (Agent Management) page. A red arrow points from the 'エージェントの移動' (Move Agent) option in the context menu to the right screenshot. The right screenshot shows the 'エージェントの移動' dialog box. The dialog has a radio button selected for '選択したエージェントを別のドメインに移動する' (Move selected agents to a different domain). Below this, there is a tree view showing the 'Apex Oneサーバ' (Apex One Server) structure. At the bottom, there are three input fields: 'Apex Oneサーバ名/IPアドレス' (Apex One Server Name/IP Address) with the value '.manage.trendmicro.com', and 'SSLポート' (SSL Port) with the value '443'. A '移動' (Move) button is highlighted with a red box.

Trend Micro Apex One™

ダッシュボード エージェント ログ アップデート 管理

エージェント管理

エージェントツリーからドメインまたはエンドポイントを選択し、エージェントツリーの上に表示されるタスクのうち

エンドポイントの検索: [詳細検索](#)

エージェントツリー表示:

ステータス タスク 検索ログ エージェントツリーの管理 エクスポート

Apex Oneサーバ

ドメイン/エンドポイント ▲ ログオンユーザ

PC1 ステータス

PC2 タスク

検索ログ

エージェントツリーの管理 ▶ ドメインの追加

エクスポート ドメイン名の変更

エージェントの移動

ドメイン/エージェントの削除

エージェントの移動

選択したエージェントを別のドメインに移動する:

Apex Oneサーバ

選択したエージェントを別のApex Oneサーバに移動する

Apex Oneサーバ名/IPアドレス:

SSLポート:

【注意】 エージェント移動時に発生するトラフィック

- エージェントの移動時、エージェント自身がSEP版エージェントプログラムへバージョンアップを行うため、1台につき**200~300MB程度の**トラフィックが発生します。
- 移動時はネットワーク帯域を考慮し、Apex Oneコンソールから指示する「エージェントの移動」を少しずつ行い段階的にエージェントの移動作業を進めていただくことを推奨しております。

IpXferを使用したエージェントの移動方法

- Apex Oneコンソール上、オフラインや到達不能と表示される、社内LAN内と疎通する機会が少ないエージェントはIpXferという移動ツールを使用することでSEPへ移行することが可能です。
- 使用方法は次スライドでご説明します。

【準備】移行先エンドポイントグループマネージャの FQDN 確認

Vision Oneコンソールにて、左メニュー Endpoint Security Operations> Standard Endpoint Protection> ディレクトリ> 製品サーバ> エンドポイントグループマネージャのFQDNをメモしておきます。

The screenshot shows the Trend Vision One console interface. The left sidebar menu has 'Endpoint Security Operations' expanded, with 'Standard Endpoint Protection' highlighted. The main content area shows the 'ディレクトリ' (Directory) tab selected, with '製品サーバ' (Product Servers) also highlighted. A red arrow points from the '製品サーバ' tab to a callout box containing the FQDN: `xxxx.manage.trendmicro.com`. Below this, a table lists the product servers.

サーバ	表示名	製品	接続タイプ	最新のレポート	仮想アナライザ
xxxx.manage.trendmicro.com	Mac	Apex One (Mac) 3.5	手動	2023/12/14 11:57	
xxxx.manage.trendmicro.com:443/officescan/	Windows	Apex One 14.0	自動	2023/12/14 10:05	

【準備】 ツール類のダウンロード

移行したいエージェントにて、移行に必要なツール類をダウンロードします。

- a. 移行したいエージェントにて任意のWebブラウザを開きます。
以下の URL へアクセスし、移行に必要なツール類をダウンロードします。
 - https://<エンドポイントグループマネージャのFQDN>:443/officescan/hotfix_pccnt/Common/OfcNTCer.dat
- b. 32ビット版のエージェントは以下を合わせてダウンロードしてください。
 - https://<エンドポイントグループマネージャのFQDN >:443/officescan/hotfix_admin/utility/ipxfer/DatFHS.dll
 - https://<エンドポイントグループマネージャのFQDN >:443/officescan/hotfix_admin/utility/ipxfer/ipxfer.exe
- c. 64ビット版のエージェントは以下を合わせてダウンロードしてください。
 - https://<エンドポイントグループマネージャのFQDN >:443/officescan/hotfix_admin/utility/ipxfer/DatFHS_x64.dll
 - https://<エンドポイントグループマネージャのFQDN >:443/officescan/hotfix_admin/utility/ipxfer/ipxfer_x64.exe
- d. ダウンロードしたファイルとツールを、移行エージェント側で同じフォルダ内に保存しておきます。

移行対象エージェントによるIpXferの実行

移行したいエージェントにてIpXferを実行し、エージェントをSEPへ移動させます。

a. 移行したいエージェントにて管理者権限でコマンドプロンプトを起動します。

b. 前手順 d. でファイルとツールを保存したフォルダに移動します。

c. 以下のコマンドを実行します。

```
ipxfer_x64.exe△-s△ <上記1-c でコピーした FQDN>.manage.trendmicro.com△-p△80△  
-sp△443△-e△ofcntcer.dat△-pwd△<移行するエージェントのアンロードパスワード>
```

※△は半角スペースです。

※32ビット版のエージェントを移行する際は「ipxfer_x64.exe」部分を「ipxfer_x64」に変更します。

```
C:¥test>ipxfer_x64.exe -s [REDACTED].manage.trendmicro.com -p 80 -sp 443 -e ofcntcer.dat -pwd [REDACTED]  
The iATAS package has been downloaded.
```

d. Standard Endpoint Protection に該当のエージェントが移行されます。

©掲載内容の無断転載を禁じます。

本メールならびに本メールに記載されているURLのウェブサイト(以下「本ウェブサイト」と言います)上に掲載されるテキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、あわせて「ドキュメント」と言います)に関する著作権、並びに、その他のすべての知的所有権は、トレンドマイクロ株式会社又はトレンドマイクロ株式会社へドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。お客様は、トレンドマイクロ株式会社の事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントをダウンロード、アップロード、複製、改変、翻訳、使用許諾、又は、手段を問わず転送することはできないものとします。

TRENDMICRO、TREND MICRO、ウイルスバスター、InterScan、INTERSCAN VIRUSWALL、InterScanWebManager、InterScan Web Security Suite、PortalProtect、Trend Micro Control Manager、Trend Micro MobileSecurity、VSAPI、Trend Park、Trend Labs、Network VirusWall Enforcer、Trend Micro USB Security、InterScan Web Security Virtual Appliance、InterScan Messaging Security Virtual Appliance、Trend Micro Reliable Security License、TRSL、Trend Micro Smart Protection Network、SPN、SMARTSCAN、Trend Micro Kids Safety、Trend Micro Web Security、Trend Micro Portable Security、Trend Micro Standard Web Security、Trend Micro Hosted Email Security、Trend Micro Deep Security、ウイルスバスタークラウド、スマートスキャン、Trend Micro Enterprise Security for Gateways、Enterprise Security for Gateways、Smart Protection Server、Deep Security、ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス、SafeSync、Trend Micro NAS Security、Trend Micro Data Loss Prevention、Trend Micro オンラインスキャン、Trend Micro Deep Security Anti Virus for VDI、Trend Micro Deep Security Virtual Patch、SECURE CLOUD、Trend Micro VDIオプション、おまかせ不正請求クリーンナップサービス、Deep Discovery、TCSE、おまかせインストール・バージョンアップ、Trend Micro Safe Lock、Deep Discovery Inspector、Trend Micro Mobile App Reputation、Jewelry Box、InterScan Messaging Security Suite Plus、おもいでバックアップサービス、おまかせ！スマホお探しサポート、保険&デジタルライフサポート、おまかせ！迷惑ソフトクリーンナップサービス、InterScan Web Security as a Service、Client/Server Suite Premium、Cloud Edge、Trend Micro Remote Manager、Threat Defense Expert、Next Generation Threat Defense、Trend Micro Smart Home Network、Retro Scan、is702、デジタルライフサポートプレミアム、Airサポート、Connected Threat Defense、ライトクリーナー、Trend Micro Policy Manager、フォルダシールド、トレンドマイクロ認定プロフェッショナルトレーニング、Trend Micro Certified Professional、TMCP、XGen、InterScan Messaging Security、InterScan Web Security、Trend Micro Policy-based Security Orchestration、Writing Style DNA、およびSecuring Your Connected Worldは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

各社の社名、製品名、およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

(c) 2024 Trend Micro Incorporated. All Rights Reserved.

